

CASBEE大阪 OF THE YEAR 2014 表彰候補建築物 採点結果一覧表

No.	3	表彰部門	事務所							
建築物名称	NTT西日本研修センタ 本館									
建築主	西日本電信電話(株)									
設計者	(株)NTTファシリティーズ									
建設地	都島区東野田町4丁目									
建物用途	事務所									
ランク	S	BEE値	3.2	公表	H25-123	工事完了	26年3月	受付	H24-195	

【CASBEE大阪みらいの総合評価】

(BEE値を15点満点に換算)	12.2 / 15	A
-----------------	-----------	---

【設計上の配慮事項等の評価】

①独創性・先進性				
<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫がなされ独創的な取組があるか ・新しい技術が活用され先導的取組があるか 	平均点 (平均評価点)			
<ul style="list-style-type: none"> ・人・環境・技術の組み合わせによりアメニティと環境負荷低減の効果を図るという考え方が明確。 ・利用者の意識的な環境改善行動を計画に取り入れて省エネ効果をあげようとする仕組みづくりは先進性がある。 ・計画的に分散配置された吹き抜け空間の設置は独創的な取り組みであり、自然採光と自然換気の経路として有効に機能している。建物全体を使ったパッシブデザインによりエネルギー消費量やLCCO2を大幅に低減した。 ・人の身体性・sensitivityを刺激する計画。 ・パッシブデザインの採用(いくつもの吹き抜けによる自然採光、自然換気) ・太陽光追尾型集光装置(アクティブ) 	4.8 (3.2)			
②調和性・統合性				
<ul style="list-style-type: none"> ・計画内容は合理的で効率的か ・計画内容は、建築デザインにうまく取り込まれているか。 また、周辺まちなみとの調和を図っているか 	平均点 (平均評価点)			
<ul style="list-style-type: none"> ・周辺との住み分けを圧迫感なく達成している。 ・小さな中庭を分散配置させたり、天井と照明器具を一体化させるなど、環境への取り組みが建物内部空間を面白くすることにつながっている。東側の目隠しが周辺環境の向上に資しているかは疑問が残る。 ・吹き抜け空間は、居住者に対して建物内外を繋ぐ役割を、その設計意図通りに果たしており、建物外の自然環境の存在を居住者に感じさせる心地よい空間を創出している。 ・研修効果の最大化を図るべく、吹き抜け配置、居室配置、動線計画に工夫が見られる。 ・周辺まちなみとの調和という点では、直立壁の存在が気になる。考え次第？研修生への配慮？それとも、プライバシーへの配慮？ 	4.3 (2.9)			
③取組姿勢				
<ul style="list-style-type: none"> ・建築主の環境配慮への積極的な取組姿勢が伺えるか。 また、その取組姿勢が、他の建築主の規範となりうるか 	平均点 (平均評価点)			
<ul style="list-style-type: none"> ・細やかな配慮により楽しみながら環境配慮できるようにするという姿勢が明確。 ・環境形成に対する人的介入の余地を計画に取り込む考え方は評価したい。 ・環境配慮の要素技術を展示場的に採用する技術段階から一歩進み、吹き抜け空間を中軸とした環境技術が建物の本来機能と密接に関わる形で総合化された建築といえよう。これは建築主の環境配慮への意識が高いことを示すものであろう。 ・シミュレーションを照明・温熱・換気など複数分野で実施しているのは評価できる。配布資料fig01で「環境効果の実証」とあるがこれは設計段階でのシミュレーションとその視覚化の事を「実証」と呼んでいるのか？それとも、完成後の運用段階で実空間の温熱環境をセンシングして設計段階でのシミュレーション内容にずれがないことを「実証」したのか、不明。前者であれば「実証」ではないのでは？ 	4.8 (3.2)			
合計	13.9	平均評価点	9.3 / 10	B

※ A+B が評価点の合計(25点満点)となる。

評価点の合計

21.5



NTT西日本研修センター 本館

所在地：都島区東野田町4-499
 主用途：事務所
 事業者：西日本電信電話株式会社
 設計者：株式会社NTT ファシリティーズ

〔建築概要〕

延床面積：16,667.41m²
 階数：地上7階
 構造：鉄骨造
 完了：平成26年3月

〔CASBEE 大阪における評価〕

サステナビリティランキング：S
 建築物の環境性能効率(BEE)：3.2



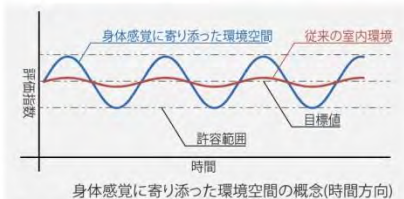
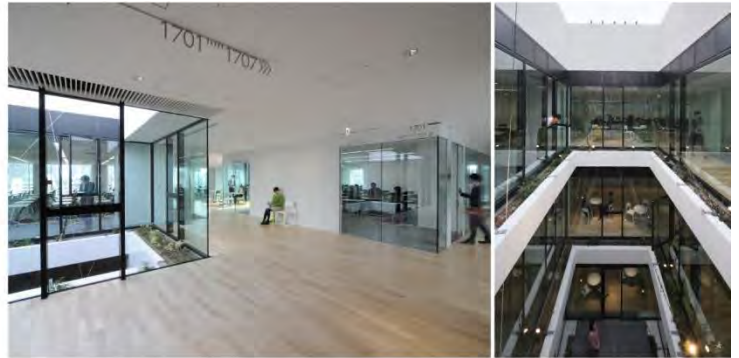
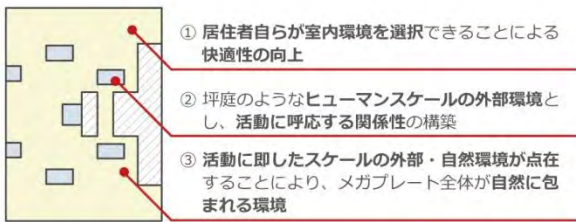
エネルギーを削減する建築。

現代建築に共通する命題に対して、従来型のシステムティックな建築計画に環境要素技術を貼り付けることを解決策とするのではなく、本来の解決策は「人を内包する空間として身体性から考えられるべき」である。

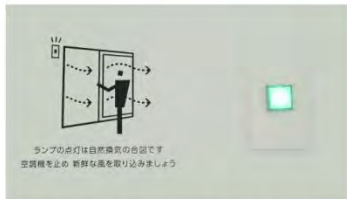
ここでは、「エネルギーの削減」に対して、「センシティブリティを刺激する計画を行った。

●小さな自然環境が与える快適性

外的環境に身をゆだねると人の環境性能に対する許容値が拡大される点に着目し、本計画では、**人本来が有する身体性・センシティブリティを刺激する環境計画**を行った。



定常的な環境ではなく**非定常な環境**を建築内部に導くことによって、**場の多様性が生成される。**



居住者自ら窓を開け風を感じることで、省エネ化に意識を向けることができる

<特長>

- ・機械に頼りすぎず自然環境をコントロールすることで、居住者の意識を環境に向けさせ、省エネルギー化を促進
- ・ヒューマンスケールな外部吹抜を点在させることで、適量に絞られた光や風がプレート内を駆けめぐり、エネルギーを削減
- ・敷地周辺部に新たな緑地帯を設け、地域環境の向上に貢献
- ・日射抑制のための庇となるバルコニーや縦ルーバーなど、方角に合わせた環境対策

<その他の取組>

- ・歴史の継承
- ・CO₂濃度による外気量制御
- ・全館LED照明
- ・各種照明制御用センサー
- ・外部吹抜への緑化による蒸散効果

